

厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）  
分担研究報告書

啓発に必要な資源の明確化と有効活用に関する研究  
研究協力者 田村 智 北里大学メディカルセンター 救急科 副部長

A. 研究目的

本研究(瓜生原班)において臓器提供意思表示に関する迷いを許容しつつ、意思表示に向けた行動を一つずつ起こしていけるように支援するためのカードとして「臓器提供迷ってますカード」を作成した。医療関係者や患者に配布し、その効果や反応を実証し、今後の移植医療の啓発における課題を明らかにする。

B. 研究方法

北里大学メディカルセンターにおいて、2024年10月15日～10月25日でグリーンリボンキャンペーンとして、「臓器提供迷ってますカード」を説明し、配布するブースを常設し、来院した患者に立ち寄ってもらった。また、救急外来のスタッフに対して「臓器提供迷ってますカード」を配布し、カードに対するヒアリングを行った。

C. 研究結果

1) グリーンリボンキャンペーン

80枚のカードを一般外来に設置し、患者が立ち寄った際に説明のパネルを見ていただき、カードを持ち帰ってもらうこととした。期間終了時は約半数の42枚を配布することができた。患者の感想を直接いただくことはできなかったが、期間中に立ち寄ってパネルを見る患者が見られた。

2) 救急外来スタッフへのヒアリング

救急外来に勤務する看護師5名、救急救命士2名、初期研修医1名に対して「臓器提供迷ってますカード」を配布し、説明を行い、カードに対するヒアリングを行った。8名のうち4名が運転免許証など何らかの形ですでに臓器提供に関する意思表示を行っていた。残りの4名にカードを配布した。4名はこれまで臓器提供の意思表示は行っていなかったが、その理由として、深く考えたことがないため決まっていないという声が多かったが、「臓器提供迷ってますカード」であれば、まだ決まっていなくても所有することが可能であり、今後考えるきっかけになるため良いアイデアではないかという意見が配布した全員から聞かれた。

D. 考察

グリーンリボンキャンペーンは北里大学メディカルセンターとして初めての取り組みであり、地域住民の移植医療に対する周知は十分でないと思われ、今後も活動を続けていきたい。今年度初めて当院で脳死下臓器提供症例を経験したことで、職員が臓器提供を自分ごととして捉えるようになってきたが、臓器提供の意思表示を行うまでには至っておらず、その最初のきっかけとして「臓器提供迷ってますカード」は有効と考えられた。

今回、非医療従事者からのカードに対する感想をもらうことができなかった。次年度以降は直接対話する機会を設けるために、講演会を開催し、患者や市民との意見交換の場を設けたい。

E. 結論

初めての院内での臓器提供啓発活動であったが、「臓器提供迷ってますカード」を使用することで、有効な啓発を行うことができた。移植医療に対する理解が乏しく、臓器提供に関する意思表示をするに至らないような対象には「臓器提供迷ってますカード」が有効となる可能性がある。

